

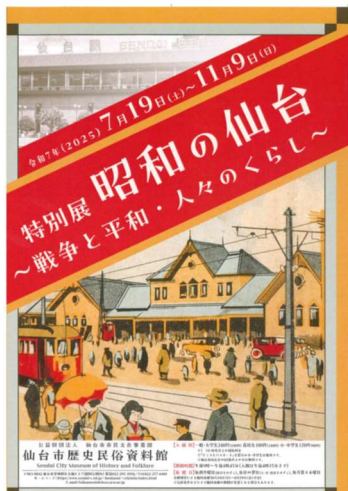
歴史民俗資料館だより

令和7年9月号 長月 仙台市歴史民俗資料館



〒983-0842 仙台市宮城野区五輪 1-3-7 TEL 022-295-3956 FAX 022-257-6401

特別展「昭和の仙台」～戦争と平和・人々の暮らし～



展示期間：7月19日（土）～11月9日（日）

昭和元年（1926）から100年、第2次世界大戦の終戦から80年という年にあたり、昭和という一時代の中で変化した仙台の街の風景と人々のくらしの道具の変化についてご紹介しています。

■講座 「戦前戦後で変わる町・仙台」

日 時 令和7年9月21日（日）
13:30～15:00
会 場 仙台市歴史民俗資料館
講 師 当館学芸員
申込み 参加自由、事前申込不要

9月から学校の見学（校外学習）が多くなります

小学校3年生の社会科において、「市の様子と人々の暮らしの移り変わり」を学ぶ単元があります。交通や公共施設、土地利用や人口、生活の道具などの時代による違いに着目して、聞き取り調査をしたり資料で調べたりして、市や人々の様子をとらえ、市や人々の生活の様子は、時間の経過に伴い移り変わってきたことを理解することがねらいです。

これから学校の利用が多くなり、9月は13校、10月は8校、11月は8校、12月は5校が、校外学習で当館を利用する予定です。子供たちには、バーチャルではない実物の展示を見て、学習課題を追究してほしいと願っています。

小学校だけではなく、中学校、高校、大学、放課後デイサービス等の利用や、社会学級や市民センターの老壮大学等での利用もできますので、是非、御来館ください。



「つつみ人形」

仙台の民俗芸能 「れきみん秋祭り2025」に向けて

■ 宮城県の民俗芸能の特徴



東北地方は民俗芸能の宝庫といわれる。鄙（ひな）にあるほど伝統的な俗習や民俗の芸能は残されるからであろうか。しかし宮城県に限って言えば、歴史的な制約があったとはいえ、民俗芸能の全県的な実情は他県に比べ決して豊かではない。

昭和の初年まで、からくも残っていた御国浄瑠璃（おくにじょうるり）・仙台万歳（せんだいまんざい）・各地の口説（くどき）などの語りものは、いまその片鱗もみられない。現在県北の全域で盛行している南部神楽以前の、江戸末期までは行われていたはずの修験神楽なども、栗原・大崎地方などでは、加美郡小野田町の薬菜（やくらい）神楽以外は痕跡すら残っていない。

また仙台領内では盆踊が全く伝わらなかったことなど、他県では考えられない実情がある。

しかし、誇れるものが全くないわけではない。県北東部には優れた法印神楽群が土地の祭りには欠かさず活動をしているし、栗原郡金成町の小迫（おばさま）の延年（えんねん）、そして仙台城下周辺に良質の価値のある芸能を残している田植踊と鹿踊剣舞の各組などは、さすがに雄藩の民間らしい個性の秀れた芸風を誇っている。

宮城県下の民俗芸能の種別と態様には瞭然とした地域的な違いがあり、大別して三つに分けられよう。

県北圏には独特な言い立てをもって神話を劇風に舞う法印神楽とその流れをくむ風流の南部神楽が活躍し、鹿踊などの風流芸も豊かな展開をみせている。

県南圏は全体的におとなしく、騒がしい芸風をもつものが極めて少ない。種別も数も豊富ではないが、黙劇の古風な十二座系の神楽が洗練された風格をもって各地に分布する。

仙台市を主体とする仙台圏の芸能は都市らしい格調の高さと華やかさをもち、個性的な古態を残すものが豊かにひしめいている感が強いのである。ところが、仙台圏の塩竈市、松島町など北東部市町村にだけはなぜか民俗芸能の伝承が極めて少ない。

（参考文献：仙台市史 特別編6「民俗」）